

感染症の流行・発生状況について
2023年第34週(8月21日～8月27日) 診断分

● 2023年第34週の警報・注意報

警報	注意報
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(八重山保健所) 急性出血性結膜炎(中部保健所)	なし

● 2023年第34週全数報告について(南部保健所管内)※先週までの報告からの追加も含む

《二類感染症》	《五類感染症》
結核 1件	梅毒 1件

● ヒトメタニューモウイルス感染症について

昨年度、南部保健所管内において、乳幼児を中心にヒトメタニューモウイルス(hMPV)感染症に伴う急性細気管支炎が認められており、人工呼吸器を必要とする重症例も認められました。hMPV感染症は「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下、法)で規定される1～5類感染症ではないため、沖縄県における流行の実態が把握できておらず、流行状況の把握目的にて、南部保健所では法第15条第1項に基づき、昨年度7月から積極的疫学調査を実施したところです。

本年度においても、南部管内8小児科定点の協力の下、ヒトメタニューモウイルス(hMPV)感染症の流行をいち早く感知するため、引き続き積極的疫学調査を実施しています。

他の感染症とあわせて、以下の一覧表で還元していますので、ご参考にさせていただきます。

● RSウイルス感染症について

現在、本県ではRSウイルス感染症患者が増加しています。

感染症発生動向調査によるRSウイルス感染症の患者報告数は、令和5年第28週(7月10～16日)に、定点当たりの報告数が4.97人(定点医療機関31カ所、報告数154人)となっております。第29週からは減少しているものの、今後の動向に注意して下さい。

RSウイルス感染症やヒトメタニューモウイルス感染症は、新型コロナウイルス感染症同様に感染予防策として「手洗い」、「マスクの着用(咳エチケット)」が重要となります。

これらの呼吸器感染症対策の周知について、ご協力いただきますようお願いいたします。

※定点医療機関とは、インフルエンザなど18の感染症について、患者の発生情報を提供する医療機関のことで、定点1医療機関あたりの平均報告数で、感染症の流行状況を把握しています。

沖縄県全体報告数

南部保健所管内報告数

疾病名	定点区分	31週	32週	33週	34週	34週	31週	32週	33週	34週	34週
		7/31	8/7	8/14	8/21	(定点あたり報告数)	7/31	8/7	8/14	8/21	(定点あたり報告数)
インフルエンザ	インフルエンザ	296	188	189	292	(5.41)	63	50	38	110	(7.86)
咽頭結膜熱	小児科	19	28	33	33	(1.06)	5	6	12	16	(2.00)
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	小児科	47	38	50	95	(3.06)	9	5	16	17	(2.13)
感染性胃腸炎	小児科	59	59	69	50	(1.61)	20	29	34	27	(3.38)
水痘	小児科	0	1	2	2	(0.06)	0	1	0	1	(0.13)
手足口病	小児科	1	2	7	2	(0.06)	0	0	0	1	(0.13)
伝染性紅斑	小児科	0	0	0	0	(0.00)	0	0	0	0	(0.00)
突発性発疹	小児科	8	13	6	6	(0.19)	3	4	3	4	(0.50)
ヘルパンギーナ	小児科	16	15	24	21	(0.68)	10	11	12	8	(1.00)
流行性耳下腺炎	小児科	2	2	0	2	(0.06)	0	0	0	2	(0.25)
急性出血性結膜炎	眼科	0	0	0	1	(0.13)	0	0	0	0	(0.00)
流行性角結膜炎	眼科	6	10	6	12	(1.50)	5	6	2	5	(1.67)
細菌性髄膜炎	基幹	0	0	0	0	(0.00)	0	0	0	0	(0.00)
無菌性髄膜炎	基幹	0	0	0	0	(0.00)	0	0	0	0	(0.00)
マイコプラズマ肺炎	基幹	1	0	0	0	(0.00)	0	0	0	0	(0.00)
クラミジア肺炎	基幹	0	0	0	0	(0.00)	0	0	0	0	(0.00)
RSウイルス感染症	小児科	68	45	22	15	(0.48)	9	6	3	2	(0.25)
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	基幹	0	0	0	0	(0.00)	0	0	0	0	(0.00)
COVID-19	COVID-19	569	363	413	459	(8.50)	184	111	131	146	(10.43)
ヒトメタニューモウイルス(hMPV)感染症							8	3	3	0	(0.00)

警報
なし

※クラミジア肺炎については、オウム病を除く。